

平成21年度 第2次小樽市温暖化対策推進実行計画の推進状況

1. 実行計画の削減目標

計画期間中の温室効果ガスを、各年度において1990（平成2）年度の排出量から6%以上削減する。
（計画期間：平成18～22年度）

2. 温室効果ガス総排出量の目標達成状況

(トン-CO ₂)				
	1990(H2)年度	2009(H21)年度	増減量	増減率(%)
温室効果ガス総排出量	36,051	29,904	▲ 6,147	▲ 17.1

目標6. 0%以上削減に対し、実績17.1%削減で達成。

3. 平成20年度（前年度）との比較

(トン-CO ₂)				
	2008(H20)年度	2009(H21)年度	増減量	増減率(%)
温室効果ガス総排出量	29,072	29,904	832	2.9

温室効果ガス別・調査項目別の排出量 (二酸化炭素換算 トン-CO₂)

温室効果ガス	調査項目	2008(H20)年度	2009(H21)年度	増減量	増減率(%)	
二酸化炭素	公用車	ガソリン	288	281	▲ 7	▲ 2.4
		軽油	419	356	▲ 63	▲ 15.0
	燃料消費	灯油 (冬季排出分)	3,407 (3,407)	3,715 (3,715)	308 (308)	9.0 (9.0)
		A重油 (冬季排出分)	8,561 (6,697)	8,048 (7,033)	▲ 513 (336)	▲ 6.0 (5.0)
		液化石油ガス(LPG)	39	41	2	5.1
		都市ガス (冬季排出分)	309 (214)	1,037 (240)	728 (26)	235.6 (12.1)
		電気使用量 (冬季排出分)	15,529 (4,376)	15,918 (5,068)	389 (692)	2.5 (15.8)
メタン	下水処理	394	410	16	4.1	
一酸化二窒素	自動車走行	11	11	0	0.0	
	麻酔剤	112	84	▲ 28	▲ 25.0	
ハイドロフルオロカーボン	カーエアコン	3	3	0	0.0	
温室効果ガス排出量		29,072	29,904	832	2.9	

※冬季排出分は、その調査項目におけるロードヒーティング及び暖房による排出量

冬季エネルギー消費による排出量 (二酸化炭素換算 トン-CO₂)

温室効果ガス排出量		2008(H20)年度	2009(H21)年度	増減量	増減率(%)	
		29,072	29,904	832	2.9	
内訳	冬季排出	ロードヒーティング	4,865	5,560	695	2.4
		暖房	9,829	10,495	666	2.3
		その他	14,378	13,849	▲ 529	▲ 1.8

4. 結果の評価と今後の取組

(1) 1990（平成2）年度比17.1%減、削減目標6%以上を達成

2009（平成21）年度の温室効果ガスの総排出量は、29,904トンで、1990（平成2）年度より6,147トン減少し、削減率は17.1%となり、削減目標の6%以上を大幅に上回り、目標を達成している。また、前年度の2008（平成20）年度の結果と比較すると、832トン（2.9%）増となった。

(2) 冬季間の低かった気温による排出量の増加と省エネ型設備機器の導入による削減

温室効果ガス別・調査項目別の排出量をみると、2008（平成20）年度と比較して大きく増加したものは、灯油308トン増（冬季排出分308トン増）、都市ガス728トン増（冬季排出分26トン増）、電気使用量389トン増（冬季排出分692トン増）となっている。その他、液化石油ガス、下水処理は微増、自動車走行、カーエアコンでは増減がなかった。減少したものは、公用車燃料、麻酔剤のほか、A重油が513トン減（冬季排出分336トン増）と大きく減少している。A重油については、冬季排出分が増加しているにもかかわらず大きく減少しているが、これはエネルギーを大量に使用する施設の更新があり、使用燃料がA重油から都市ガスに切り替わったことによるものである。

冬季エネルギー消費による排出量をみると、ロードヒーティングが695トン増、暖房が666トン増と大きく増加している。これは、冬季間の平均気温が-1.9℃と前年度より1.2℃低かったこと、また、降雪量はあまり変わらなかったものの積雪深が増えたことが大きな要因となっている。

冬季排出以外の「その他」の部分については、前年度より529トン減と大きく減少している。これは、エネルギーを大量に使う施設の更新があり、省エネ型の設備機器が導入されたことにより、燃料や電気使用による排出量が大幅に削減されたことが主な要因となっている。

温室効果ガス総排出量は、前年度比2.9%増となっているが、暖冬であった前年度より寒かったため、冬季エネルギー消費による排出量が4.7%増と大きく増加した一方で、冬季排出以外の「その他」の部分では1.8%減となっており、各部における効率的な施設管理の取組や環境配慮行動の実践に加えて、高効率な省エネ型設備機器の導入による削減効果が大きかったものと考えられる。

【参考 気象データ】

	平年値	H20年度	H21年度
平均気温(℃)	-1.8	-0.7	-1.9
降雪量(cm)	722	639	613
積雪深(cm)	118	87	102

※平均気温は12～3月の月間値の平均

(3) 今後も環境配慮行動の徹底を推進

2009（平成21）年度の温室効果ガス排出量は、第2次実行計画の削減目標を大きく上回った。温室効果ガスの削減量は冬季間の気象条件に大きく影響を受けるが、2009（平成21）年度の冬は、前年度に比べて寒さが厳しく、排出量が増える結果となった。一方、施設の効率的な管理努力や職員一人一人の温暖化防止の取組の成果に加えて、施設の更新に伴う省エネ型の設備機器の導入による大きな削減効果も見られた。

第2次実行計画の最終計画期間である2010（平成22）年度においても、削減目標を達成し続けるために、今後も環境配慮行動などの温暖化防止の徹底を図っていく必要がある。